

I 教会生活に必要な4つのバランス=①個人的なディボーション。「イエスは、朝早くまだ暗いうちに起きて、寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた」マルコ1：35。②教会全体で奉げる礼拝。「安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ」出エジプト記20：8。③主にあって互いに交わり祈り合う。祈り合う事は、教会にとり力、祝福。「互いのために祈りなさい。…祈りは働くと、大きな力があります」ヤコブ5：16。④主の恵みに感謝しての奉仕、伝道。主の恵みに感謝しない律法主義による奉仕、伝道ではなく、主の恵みへの感謝から生まれる奉仕、伝道は祝福される。「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにととまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます」ヨハ15：5

II 「互いに分かち合い祈り合う小グループ」の土台となる御言葉

1. 「彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた」使徒2：42。御霊に満たされた初代教会は、主の御言葉を堅く守り、主の御言葉、主の恵みを分かち合う交わりをし、パンを裂き聖餐式を大切にし主の恵みを深く覚え礼拝し、個人的にも神との交わりをし、互いに祈り合う祈りをしていた。「互いに分かち合い」の土台となる「交わり」の原語=共有、分け前に与かる事、Share。キリストの恵み、御言葉の恵みを共有する事、主の恵み、御言葉の恵みを分かち合う事。祈り合う前に、まず、御言葉の恵みを分かち合う事は、交わりの中に、霊的な柱が出来る恵み。「教会は、真理（御言葉）の柱」Iテモ3：15。

2. 「もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心をつにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです」マタイ18：19、20。主は、「ふたりでも三人でも」と言われた。人数が多過ぎると、なかなか集まらない。二人か三人なら、集まり易く、主と主の御言葉を中心にして、主の名（人間の強い人、支配的な人の名ではなく）において集まる所には、主も、その分かち合い祈り合う交わりの中に臨在して下さる。何という恵みだろうか！

「ひとりなら、打ち負かされても、ふたりなら立ち向かえる。三つ撚りの糸は簡単には切れない」伝道者の書4：12。教会で洗礼受けたり、転入しても、誰とも交わらず祈り合う事がないと、霊的な敵である悪魔の誘惑に打ち負かされ易く、主と教会から離れ易い（それ故に、今後は、洗礼準備や転入準備の学びの時から、それぞれの方が支え合える為の「分かち合い祈り合う小グループ」を祈り求め備えたいと思います）。しかし、「ふたりなら立ち向かえる」。一人では弱いが、主を中心に主の御言葉を分かち合い祈り合うなら、主の御力をいただいて、悪魔の誘惑、困難に立ち向かえる。二人の間、中心に主を迎える「分かち合い祈り合う」交わりは、主を中心とした三つ撚りの糸となり、支えられる。

III 札幌ライトハウスに合う実践。

1. 週日の夜やどこかの家庭で行うのは、ご家族の健康状態等で、いつかは負担になり、

続けづらくなります。続け易いやり方を祈り求めました。キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分が「その力量にふさわしく働く力により」、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合され、成長して、愛のうちに建てられるのです。エペソ4：16

2. 当教会に可能なやり方で、小さな事からコツコツと始めたい。礼拝後、教会で行う。主日に、皆さんが、素晴らしい主に礼拝を捧げる為に集まるので、その礼拝後に、主の臨在の中（「ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです」マタイ18：20）で、やれる分ですりたいと思います。4月中まで準備し、メンバーを決め、5月からスタート。「すべての営みには時がある」伝道者の書3：1。「機会を十分に生かして用いなさい」エペソ5：16。

3. メンバー。2人から3人。4人になることも。男性は男性、女性は女性同士で。まず、スタートし、やって行く中で、メンバーが変わる事もあり得ます。「わたしは新しい事をする」イザヤ43：19

4. 内容は、3つの柱。

①御言葉（礼拝メッセージ、又は、通読している御言葉）の恵みの分かち合い。御言葉が、柱、中心にない時、不平不満、悪口の場になる事がある。聖書そのものに、御言葉中心の分かち合いの指針の御言葉がある。「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め…感謝にあふれて」コロサイ3：16。

②願い事の祈りの前に神の恵みへの感謝を分かち合う。御言葉に明確な順序が示されている。「感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい」ピリピ4：6。何時も与えられている神の恵みへの感謝を忘れ、悩みや願い事だけを分かち合い祈ろうとする時、共に心が暗くなり、祈っていても心は神に向かず、悩みに向かう悪循環となる。しかし、御言葉に従い、互いに、まず感謝を分かち合う時、すでにその時から小グループの人々の心は神に向けられる。その後、

③今、本当に祈ってもらいたい事を分かち合い、神に心に向けて祈り合う。教会の為に祈る。個人的な課題と教会の為に祈れることは大きな恵みである。祈りが満ちる所に主の祝福、主による勝利がある。「モーセが手を上げているときには、イスラエルが優勢になり、手を降ろしているときは、アマレクが優勢になった」出17：11。教会の祈りの手は大きな力である。教職者だけでなく、互いに祈り合う。「私のためにも祈って下さい」

エペソ6：19

5. 回数。月に1回。もっと回数を増やす事は自由。時間は15分程度で、長続きするように。毎月の礼拝2部は、続けます。隣の人同士で祈り合います。色々な人と祈り合える恵み。

6. 誰かが参加できない時、その人の事を覚えて祈ります。「すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目を覚まして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。」エペソ6：18